

図書館賞

渡邊 和馬(わたなべ かずま) 由木中央小 1年生

作品名: まいごのビーチサンダル

図書: まいごのビーチサンダル

このほんをてにとったのは、えがとてもきれいだったからです。とくに、サンがうみにながされて、つきにひかりにてらされているページがすきです。つきのひかりがきいろいじゅうたんのようでいいなとおもいました。でもこのえは、ひとりぼっちになったビーチサンダルのサンがよるのうみでさみしくういているすこしさみしいばめんでした。

はじめてのばしょできれいなものやたのしそうなところに来て、さいしょはよかったけどだんだんさみしくなるきもちもぼくにもあります。はじめてしょうがっこうにきたとき、しているひとはいませんでした。でも、がっこうにうさぎがいたり、はたけがあたりしてたのしそうなところだとおもいました。だけど、それをはなせるいつものともだちはいません。たのしそうなのに、たのしめないへんなきもちになりました。

「みんなだれかとさよならしながらいきていくんだ。」とサンはきづきます。ぼくもおなじでした。ほいくえんのともだちとさよならして、しょうがっこうであたらしいともだちやせんせいにであいました。さいしょはひとりぼっちだったけどいまではクラスのほとんどのことともだちです。あたらしいともだちはぼくのことをよくしりません。ぼくは、じぶんのきもちをひとにうまくつたえることがにがてです。つたわらなくてもまあいいかとあきらめてしまいます。でもせっかくさよならしながらいきていくならば、ぼくのことをしっかりしってもらいたいです。そのために、こえをおおきくはなすこと、つたわるようなぶんしょうではなすことにきをつけたいです。そしてともだちをいっぱいつくりたいです。